



B O A R D O F S T U D I E S
NEW SOUTH WALES

2013

**HIGHER SCHOOL CERTIFICATE
EXAMINATION**

Japanese Background Speakers (Section I — Listening and Responding Part A and Part B)

Transcript

Familiarisation Text

FEMALE : 来年のワールドカップ、日本もオーストラリアも行けるといいですね。

MALE : そうですね。

FEMALE : そして決勝で日本とオーストラリアが対決するともっといいです。

MALE : その時にはぼくはオーストラリアが勝つといいと思います。

Section I — Listening and Responding

Part A

Question 1

男 : やあ、こんにちは。何を読んでるんだい？

女 : ああ、これ。これはね、この間遊びに来た孫がくれたマンガだよ。

男 : え、まさこさん、マンガを読むのかい？あんたのことは30年も知ってるけど、マンガを讀んでるところなんか見たことないねえ。

女 : いやあ、せっかく小学生の孫が「おもしろいから、おばあちゃんも読んでみなよ」とおいてってくれたんだから、一生懸命読んでるんだよ。目が疲れるし、肩も凝っちゃうから、少しずつ読んでるんだけどね。

男 : そんなにまでして読んで、おもしろいかい？

女 : うーん、まあ次に孫が遊びに来るときの話題作り半分だね。日本語のはずなのに、よくわからない言葉がたくさんあって、けっこう大変よ。

男 : そうかい、でも、まさこさんはいいなあ。そうやって、遊びに来てくれるお孫さんがいて。うちなんて、ほとんど会えないよ。たまに会っても、携帯電話ばかり見ていったい何をしてるのか。おじいちゃんの話はつま

らない、なんて言うし。。。だけど、そんな大変な思いまでしてご機嫌取りをしなくちゃ、孫と話もできないなんておかしいじゃないか。

女： そりゃあ、しんたろうさん、お孫さんと仲良くしたいなら、あなたがもっと努力をして、あわせなくちゃだめだよ。

男： え、な、なんでわしが、そんな努力をしなくちゃならないんだい。

女： そんな頭の固いおじいちゃんつきあいたい孫がいるかい？

男： 若い者は年寄りをいたわるべきだろう。

女： あらあら、そりゃあそうだけど。歩み寄ると楽しいもんだよ。この間は高校生の孫娘が流行語を教えてくれたんだよ。しんたろうさん、きゃわたんってどういう意味かわかる？

男： きゃ、きゃわたん?? わんたんのことかい？

女： かわいっていう意味らしいよ。なんとなく、かわいい言葉でしょう。しんたろうさんも、今度お孫さんに会うまでに、子供たちが好きなゲームやアニメ、雑誌なんかをよく勉強しておくことをお勧めするわ。けっこう楽しいから、やっごらんよ。きっと会話も弾んで、いい友達になれるわよ。そしたら、もっと遊びに来てくれるんじゃないかしら。最近の子供は忙しいからね、近くに住んでいても、なかなか会えないのは仕方ないよ。だからせめて、会ったときには楽しまないよね。

男： そうか、そんなもんかな。じゃあ、何を勉強すればいいのか、教えてくれよ。

女： いいわよ。がんばってね。私たちもズッ友でいようよ。

男： えっ？

女： ずっと友達っていう意味よ。

Section I — Listening and Responding

Part B

Question 2, Text 1

ジャック： 皆さん、この1年は僕にとって目標を達成するための勉強とまわりからのプレッシャーで、人生の中でもすごくチャレンジングな年でした。今日はギャップイヤーを取ることが僕たちにどれほどのチャンスと機会を与えてくれるか自分の体験に基づいて述べたいと思います。

僕は10年生のとき修学旅行でベトナムとカンボジアに行って海外の若者と触れ合う機会がありました。ベトナムで小学校のペンキを塗ったり、施設の庭の花壇を作ったりしているうちに、このボランティア活動こそ僕にとって深い意味があると実感しました。カンボジアのまずしい人々の生活をまのあたりにして、発展途上国の産業をもっと発展させるためにぼくたち若者がどれほど貢献できるかを身をもって体験しました。単に労働力を提供するだけでなくたとえば、太陽エネルギーを利用したりエコロジーの技術を彼らの産業に取り入れることができれば、経済は発展すると思います。

また、多くのアジアやアフリカの貧しい若者や子供たちは、もっと教育を受けたいと切望しています。僕は、英語だけでなく、日本語も教えることができるから、彼らの学校で教師のボランティアをしてみたいです。世界を自分の目でみて、体で実感するためにギャップイヤーをとって、大学生活を始める前に、インターネットや大学では学べないことを経験したいと思います。

Section I — Listening and Responding

Part B

Question 2, Text 2

ルーシイ： 私は大学生になるのが、待ちきれません。わたしの希望している大学は日本と姉妹関係にあるので、在学中に日本に交換留学したいと思っています。ギャップイヤーをとって、大学生活を始めるのを1年遅らせることは、率直に言ってそれほど、意義があるとは思えません。大学のホリデーを利用して農業のエコワークショップやスキューバダイビングの体験レッスンや語学短期コースなどを受けることが可能です。そういったスキルを身につけてから、海外でボランティアをした方がもっと発展途上国の人々に貢献できると思います。高校教育を修了しただけで海外の人たちにどれだけスキルを提供できるでしょうか？実際に海外の人々と交流してテクノロジーや技術を向上させるのを手伝ってあげたいと思うのなら、まず自分がそのための知識と教養を大学で身につけるべきではないでしょうか。ギャップイヤーで世界と自分を見つめる機会を持つのは、勇気と情熱が思うし、大学で専門知識を身につけてから海外でボランティア活動に参加することのほうがずっと有意義だと思います。まず、自分がスキルアップして人々に貢献できるようになってからでないと、ギャップイヤーをとっても時間を無駄にしてしまう可能性が高いと強く感じます。